

## 学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	久島 桃代 【ジェンダー学際研究専攻 平成22年度生】	<p>久島桃代さんの博士論文は、福島県奥会津地方の昭和村をフィールドに、からむし織の体験生（「織姫」）となった女性たちが、なぜ1年間の体験終了後も村に残り続けるのかを問いに、からむしを通じて身体化される場所に焦点を当てて論じた研究である。</p> <p>2015年11月11日に審査委員会設置が正式に承認され、第1回の審査委員会を12月7日、第2回の審査会を2016年2月3日に開催した。第2回の審査委員会の後、2月22日に実質的な最終稿が提出された。その結果を踏まえて、3月2日に公開発表会と、最終審査委員会を開催した。</p> <p>第1回の審査委員会では、審査委員から、農村空間の商品化論や人文主義地理学の身体論が詳細に過ぎる一方、織姫たちの身体と場所を論じる上で不可欠なライフストーリーの記述が薄いことが最大の問題として指摘された。これを受けて第2回の審査委員会に提出された論文では、構成を含めて大幅な改稿が施され、理論部分の記述が整理・精選される一方、著者との対話構築的なライフストーリーが1章追加され、織姫たちのからむしを媒介とした身体と場所感覚の生成が説得力を持って提示された。</p> <p>公開発表会では、若い女性だけに注目したことの意味、昭和村の地域構造の変化が十分に描かれていない、非表象理論に依拠しながら情動への注目が弱いといった疑義が示された。これに対し久島さんは、構造的側面の分析の弱さを認めつつも、女性調査者としての自分自身が昭和村に長期の参与観察を行うことで獲得した関係性に根ざしながら、織姫たちとの間に語られた言葉以上の意味（情動や身体性）を共有する実践を行ったことが本研究の理解の基盤となっていることを積極的に主張し、理解を得た。</p> <p>本研究の意義は、経済的・社会的に衰退する日本の過疎山村における都市からの移住者の意識と実践を、女性の身体と場所感覚に照らして共感的に提示したことにある。都市との交流・嫁不足の解消という村側の企図を超えるからむしの魅力は、しかし経済的基盤を与えるものではなく、単身の織姫たちは一時的な滞在者としての刹那的な場所感覚を生きざるを得ないが、それが彼女たちの体験を濃密なものとしている。この逆説を、参与観察的フィールドワークとライフストーリーの手法によって描き出した本論文は、博士（社会科学）、PhD. in Human Geography にふさわしいものと審査委員会は評価した。</p>
論文題目	農村に移住する若い女性と身体化される「場所」 —福島県昭和村からむし織体験生「織姫」の語りから—	
審査委員	(主査) 教授 熊谷 圭知	
	教授 水野 勲	
	教授 棚橋 訓	
	准教授 荒木 美奈子	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・<input checked="" type="checkbox"/>）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="checkbox"/> 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	

